

空き家から松本を元気に！ 信大発の「ロツピキ」

信大からほど近いかつての商店街の通りに、空き家を改装したコミュニティスペースがあります。信大生の有志が拠点として「ロツピキ」。学生に限らず地域に開かれた場として、さまざまなイベントを開いています。今回は、楽しく過ごしながら地域を元気にしていく彼らの活動を紹介します。



空き家をオシャレに改装 手作りの空間を創造

ある秋の日の夕暮れ。元クリーニング店をリノベーションした建物「ロツピキ」に、信大生が1人また1人と顔を出し始めました。「キャバツ買ってきた？」

「えっ、たこ焼きに入れるんですか？」
「それってもうお好み焼きじゃないですか？」
和やかに会話が弾みます。この日は2週間に1度の「こはん会」の日で、学生であるなしかかわらず誰でも参加自由の開かれた会合が行われようとしていました。空き家を活用した建物の名前であり、信大有志の団体名でもある「ロツピキ」。2015年の1期生5人に加えて、ゲストを6人目として一緒に空間を作り上げていきたいという願いを込めて名付けられたといいます。



ハンドメイド感たっぷり
看板がとってもcuteだね♪



リノベーション時～現在までの活動が収められたノート



壁にも関わった人たちの写真が貼られている



来訪者が葉っぱ型の紙に
メッセージを書く大樹を模した
モザイクアート「ロツピキ木」

四季おりおりの
楽しみが
「ロツピキ」には
あります

多彩なイベントを開催 誰でも気軽に参加可能

建物は木造2階建てで、1階部分を使用。築50年ほどで、かつての店舗部分をオープンスペースのようにして活用しています。入口から向かって右側の壁には、リノベーションの際に出た端材を組み合わせて大樹を模したモザイクアート。来訪者には葉っぱ型の紙にメッセージを書いてもらっており、それが何枚も散りばめられています。その手前には、ショーケースを再利用してカウンターを設置。この一角はさながら、小洒落た喫茶店のような雰囲気を出しています。

「ロツピキ」は2015年当時1年生で現在は社会人になった増川千晶さんと信州大学の大学院に進学した東礼華さんが中心となって立ち上げました。「学生が集まれる場を作りたい」「学生と地域の関係を作りたい」という思いを原動力に、空き家探しをスタート。靴をすり減らしながら物件を探して紹介を受け、学校にほど近い市道沿いの空き家を借り受けることになりました。

今は2期生が4年生。副代表を務める西澤敏輝さんは「最初の年は地域と学生を繋ぐことを狙いにして、社会人の方も来られるよう土日にかしらのイベントを開いていました」と振り返ります。平日の「こはん会」は当時から今にも続いている定番の催し。「一緒にご飯を食べるといのはハードルが低いことなので、多いときは15〜20人くらいが来てくれます」と話してくれました。

このほかフリーマーケットや読書会など催しはさまざま。お酒を出す「たまりBar」には20〜30代の社会人も顔を出します。さらに持ち込みイベントの会場として貸し出すこともあり、信大の音楽サークルがミニコンサートを開いたりミーティングスペースになったり。季節ごとのイベントも大切にしておいて、敬老の日には地域のお年寄りを招いておもてなし。夏には流しそうめん、冬はクリスマス会。四季おりおりの楽しみが「ロツピキ」にはあります。

まつもと空き家プロジェクト
ロツピキ
〒390-0872 松本市北深志3-4-11
www.facebook.com/matsupuro2016/

